研修の振り返り

令和５年８月 29 日（火）
静岡県立藤枝北高等学校

７月 19 日に実施したコンプライアンス研修「藤枝北高校生の満足度を高めるために！」では、最後に「藤枝北高校生の満足度を高めるために私たちはこうありたい！」という振り返りを行いました。先生方から記載していただいた内容を可能な限りカテゴリーに分け、集約しましたので概要を報告します。（先生方の全ての意見は別紙にまとめました。）

求められる（生徒への）対応

〇やればできるという成功体験を経験させることは教員一人では難しいのでチーム（学年、学校全体）で指導に当たっていきたい。
〇「成功体験」と「我慢するスキルを身に付ける」ことで本当の忍耐力が身に付くと考えている。社会に出たときに必要な力であり、それを身に付けた生徒が笑顔で卒業できるのではないか。
〇とにかく生徒との関わりを大切にする。たとえその瞬間では生徒から思ったような返事や対応が返ってこなくても焦ることなく、声を掛け、関わりを続ける姿勢を大切にしていきたい。
〇生徒の話をしっかり聞き、何が言いたいのかを理解するよう努力する。このとき個人を否定しない。
〇わかる授業を常に心がける。次回の授業展開が気になるような授業を継続していく。その前提としては、安心・安全な学習環境と不安なく登校できる学校全体の環境を整える必要がある。
〇一人の社会人として考えて行動できるようになって卒業させたい。周りの状況を察することができる人間になってほしい。もちろん経験不足な面もあると理解した上で、納得感をもてるよう、生徒には１つ１つ細かく説明していくことが必要である。

生徒に求めるもの、こと	教職員の対応
多くの成功体験	・チームでの対応
忍耐力をつける	・粘り強い指導
表現力をつける	・個に応じた支援や関わりとそのための共通理解
心理的な安全性をもたせる	・安全・安心な教育環境の提供
周りの状況を察する力を育む	・生徒の納得感を高める丁寧な説明とそのための共通理解
自己肯定感を高める	・様々な角度からのアプローチや事後指導（フォロー）のための教員同士の意思疎通

求められる教職員同士の在り方

〇生徒を多角的に見て、教員相互の情報交換により、継続して挑戦できる場を提供し続けたい。
〇様々な生徒、様々な教員がいる良さを活かし、チーム対応で互いに対話し、指導をしていきたい。
〇粘り強い指導、生徒の心に届く声掛けなど教職員それぞれの個性を活かせるとよい。
〇教員同士の風通しを良くし、いつでも生徒のことを話せる雰囲気でありたい。その話から生徒の様々な良さに気付き、教員が声掛けすることで生徒自身が自己実現に向かう支援をしていきたい。
〇自己決定の場の与え方やタイミングなど、生徒のために常に考えていく姿勢が大切である。
〇生徒の視野を広げ、よりよい目標を持たせるために多様性、価値観を認めた上で生徒と向き合いたい。
〇日頃から教員同士がコミュニケーションをとり、生徒の満足度を高めるためにはといった共通の目的に向かっていきたい。

どのような場面で	教職員同士はこうありたい
挫折しそうな生徒がいるとき	・教員同士が情報交換し、生徒を多角的に捉える。
（多様な）生徒への対応に苦慮しているとき	・生徒の良さや強みを発見する。 ・自己決定の場を適切に整えることを意識したい。 ・教員の個性を活かしながら、共通の目的の下、生徒のことについて気兼ねなく話せる雰囲気でありたい。

求められる学校（組織）

〇教職員同士が安心して自分の考えや思いを発言し、建設的に話し合うことができれば、自然と生徒も安心して失敗できる環境になり、「次もやってみよう」と思える気持ちになるのではないか。先生も生徒も次の行動にチャレンジできる環境であるとよい。
〇生徒に限らず、先生も含めて積極的にコミュニケーションをとることで、自身の知らなかった知識や情報を得ることができ、互いの成長につながっていく。このように人との対話は社会生活でとても重要になってくることを教員自身の経験から生徒に伝えていけるのではないか。
〇教職員間の風通しを良くすることで、自然に一人では発想できないような良いアイディアが生まれると思う。そのような職場でありたい。
〇個々の教員の特徴や良さを生かしたチーム藤枝北高校として生徒指導ができるようになりたい。
〇教員同士のチームワークや絆を高めるためには、生徒に対する要求レベルをもう少し高め、教員同士が意見を出し合い、前向きに悩んでもよいかなと思う。まずは自分自身にもう少し高い目標を課し、その目標に到達できるよう、工夫や仕掛けを考えていきたい。

教職員同士の雰囲気	生徒に還元されること
教員自身が楽しく、余裕をもって働くこと	・生徒一人一人に向き合った指導につながる。 ・教職員同士の対話の大事さを成功経験として生徒に伝えることができる。 ・新しいアイディアの想起につながる。
生徒に対する目標（要求レベル）を高くもつこと	・協働して目標を到達するための工夫や仕掛けを考えることができる。 生徒の心理的特性を踏まえた情報共有と指導実践につながる。

課題と思われることや今後、進めていきたいこと

〇教育課程をわかりやすくすることが必要ではないか。総合学科としての機能を高めるため、教科、系列の担当者とのコミュニケーションを図っていくことが必要である。
〇生徒が、将来の自分や求めるキャリアに沿った授業選択ができるような方向にもっていかせたい。
〇良いことは褒め、修正点は確実に修正させることが教師の役割であると思う。生徒が満足感を得られれば、親の満足感にもつながる。あくまでも学校の主役は生徒であることを忘れてはいけない。
〇グラデュエーションポリシー、スクールポリシーから教科、学年で何ができるかを考え、それらが達成できるような教育活動にしていきたい。
〇世の中は多様な生徒の価値観を認める流れになってきていることから個に応じた授業で、その子供が満足すればそれで良いのではないかと思う。無理に全体に合わせる必要はないのではないか。
〇生徒一人一人の満足度は違うことから、集団としてあえて高い目標を設定せず個に応じて少しずつ目標を上げていく考え方の方が望ましいのではないか。
〇多様性、価値観を尊重する時代である。生徒の満足度を高めることは何を基準として対応するのかは難しい。学校教育が単なるサービス業になってはいけないと思う。

進めていきたいこと	行うべきこと
教科、系列の連携	・わかりやすい教育課程と総合学科としての機能向上の方策の検討
スクールポリシーの具体化	・教科、学年等で何ができるかの具体的な検討

先生方のこれまでの経験に基づいた学習指導や生徒指導の考え方、教育観を今回の研修を通じて互いに話すことができ、非常に貴重な時間になったのではないでしょうか。一方で、個人を重視することを社会が求める中、学校や集団に対して共通性を持たせて満足度を高めるといった方向性に矛盾を感じられる先生もいました。このように「社会の流れ」に追随しがちな昨今の学校教育の方向性に一石を投じる意見もいただくことができ、私としても貴重な研修会となりました。

今回の研修で得られた先生方の意見や課題感を受け止め、生徒の満足度、先生方の満足度を少しでも高められるような方策を見出していきたいと考えています。